



KWACHA

NO.1

Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味し、オンドリの声からきたといわれています。

日本マラウイ協会設立なる

去る2月26日、日本マラウイ協会は小さいながらも元気なうぶ声を上げました。そして今、ここに協会機関誌「クワチャ」をお届けすることは会員・関係者一同にとって大きな喜びであります。

思えば昭和46年8月に青年海外協力隊マラウイ国派遣第一次隊員7名が初めて同国の土を踏んで以来12年有余、現在派遣中の隊員は100名を越え、帰国隊員数は350名に近い数になっております。この間、現役隊員・帰国隊員並びにマラウイ国とわが国とのかけ橋とならんとする数多くの方々の協力の下で、マラウイ紹介誌第一号や写真集の発行、各種講演会など様々な活動がなされてまいりました。

こうした経緯をふまえ、協力隊員及び帰国隊員に限らず、広く市民の方々のより一層の参加を得てわが国とマラウイ国との人心交流の促進を図ろうというところに、この協会の目的があります。

また、この「クワチャ」は、協会機関誌として会員間相互の連絡の場を提供するとともに、協会の活動状況をお知らせし、併せてより多くの人々に協会への御参加を呼びかけるものです。今後とも、各位の御理解と御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

ごあいさつ

会長 卜部敏男

日本マラウイ協会が誕生したのは本年春のことである。遠く東アフリカの片隅、西はザンビア、南と東はモザンビーク、北と東をタンザニアに囲まれた内陸国マラウイは、あまり人に知られた国ではない。しかしバンダ大統領は建国の父で、かつ、理論よりは現実を尊び、マラウイを堅実で安定した国として育て上げてきている。南アフリカ連邦の人種差別打破のため、むしろ外交関係を持つという現実的路線を選んだのも、バンダ大統領である。

日本の大使館はまだ設置されていないが、1971年以来、青年海外協力隊が派遣されるようになって13年、マラウイで活躍して帰国した若者は男女合わせて約350名に達した。そうした青年海外協力隊出身者が中心となって誕生したのが日本マラウイ協会である。東京でマラウイの大使館に代わる役割を果たしたい、マラウイとの友好親善に尽くしたい、少しでもマラウイ国民に役立つことをしてあげたい、そしてマラウイの友としてお互い同志の親睦を図っていききたい、ともに若き日の思い出を語り合いたい、そういう願望をともしているのが日本マラウイ協会のメンバーなのである。

今度協会として会報を発行することになったと聞いた。会員各位のイニシアチブを歓迎するとともに、会報が日本マラウイ協会の活動に大きく貢献するよう、会員各位はもとより、マラウイに関心を持たれる方々のご協力をお願いしたい。

〔(財)シルバールボランディアズ理事長、元マラウイ国大使〕

日本マラウイ協会設立趣意書

戦後37年間、国土荒廃から復興した新生「日本」の経済発展は国際化の波のなかでなしとげられました。

今日では世界経済が相互依存を一段と強め、広範な分野に才つたって国際関係がますます緊密、拡大化しています。そして又活動の分野は量の面だけにとどまらず一方では質の向上を要求してきています。

我が国としては欧米先進国との関係調整に限らず発展途上国との相互関係の強化拡充に積極的に対応しつつ安定した世界平和を目指さなければなりません。

このような時代の要請として最重要課題のひとつは人心交流であり、そこから生れる相互理解が文化風俗、習慣等の異なる諸国との間に真の友好への礎を築けるのです。

私達が「日本マラウイ協会」を結成した所以もここにあります。

まさに21世紀という新しい歴史の流れを目前にし地球を単位とする人類の共存共栄を基調とする世界平和の為、本会の重要さも日々増していくものと信じます。

尚、本会に集う若き世代はボランティア精神に則り青年海外協力隊員としてマラウイ国の全地域に技術移転の担い手となり日本では得られない体験を積んできた人々です。

各界の好意ある御協力と御支援を願う次第です。

昭和58年2月26日

日本マラウイ協会



マラウイとの出逢い

副会長 秋山忠正

6年前の年末、ザンビアのルサカからチパタ経由マラウイのボーダーを越えた。福田駐在員の御厚意で、8n日の間、激しい雨をついて北から南とい国中を走り周り、隊員の現場を歴訪した。初めてのアフリカ行き、初めての隊員訪問の旅であっただけに、すべてが強烈で新鮮な印象であった。日本から一番遠くて一番知られていない国というのが、隊員訪問の旅としてマラウイを選んだ理由であった。およそ常識的理由から縁遠いマラウイとの出逢いであり、その後の私の生き方にも強い影響を残すことになった。

それから6年、多くの素晴らしいマラウイ派遣隊員OB・OGの友人を得た。またその間に次第にマラウイの風土・人・社会が私の心の中にしっかりと居座って

しまった。昨年の暮れ、タンザニア南部の高地キツレ牧の山あいから望見した、5年振りのマラウイ湖の湖面の輝きが大変印象的であった。

さて今回の日本マラウイ協会の発足は、その動機が会員諸兄弟のマラウイに対する純粋な友情そのものであるという点で、今どき大変珍しいケースであると思う。一万数千キロメートルの空間にかけられたこの友情のかけ橋が、今後どのように実り多いものに育っていくかは、我々にとって一つの野心的挑戦であるかもしれない。10年先の実り多い成果を夢見つつ、皆さんの活発な日常活動に期待したいと思う。

〔(社)協力隊を育てる会常務理事〕

クワチャの創刊によせて

副会長 福永英二

わが国とアフリカとの二国間の友好関係を促進するための協会は現在10近く存在して、夫々がそれ相応に活動しているが、今度生まれた日本マラウイ協会の発足の背景は、今までのものとは違っている。というのは協会創立の発起人の方々が、かつて青年海外協力隊隊員としてマラウイで活躍された経験を持つ方たちで、それだけに、ひとしくマラウイという国に非常に強い愛情を持っておられ、彼らの純粋な情熱から、この協会が生まれたということである。

周知のように、マラウイに派遣された協力隊員の数は、今日までの累計では400人を少し越えており、派遣隊員は毎回増えつづけ、特に女子隊員が目立って増えているのが特徴である。わが国とマラウイの間には在外公館はまだ相互に開かれていないだけに、両国の友好関係にとって、今後、日本マラウイ協会の活動が極めて重大になってくるのである。

〔(財)アフリカ協会専務理事〕

協会行事報告

(1983年2月26日～11月1日)

■2月26日■

創立総会を開催し、協会趣意書・規約を承認可決、理事・監事を選出した。

理事会を開催し、会長・副会長・専務理事を選出した。

創立記念パーティを開催し、創立を祝し親睦を深めた。

場 所：日本青年館（東京都新宿区）

出席者：35名

■5月21日■

第2回通常総会を開催し、昭和57年度事業・決算報告を承認し、昭和58年度事業・予算計画を承認可決した。

場 所：日本青年館

出席者：33名

■6月10日■

卜部会長からバンダ大統領に宛てた、協会の趣旨を説明し協力を要請する親書（卜部親書）を、マラウイ国へ赴任の有馬光正OBに託した。

■5月～7月■

外務省担当課等と連絡をとり、協会設立の趣旨・概略を説明し、新任村上大使にマラウイ国の現状を紹介するとともに、マラウイ国側に対する大使からの協会の紹介を依頼した。

◆協会活動計画第1弾◆

マラウイ国紹介誌を作ろう!!

原稿をお寄せください

協会の目的の大きな一つとして、また、協会がより多くの方々のご支援を得るためにも、マラウイ国を人々に知っていただくことは重要なことです。しかしながら、既に発行になっている紹介誌第一号や写真集はあるものの、手軽さや発行部数の点からも十分とは言えず、新たな紹介誌の発行が待たれています。

そこで本協会ではこのたび、下記のような紹介誌の発行を企画いたしました。発行実現のため、皆様からの寄稿・御協力をお願いいたします。

- I. タイトル：マラウイーアフリカのあたたかさ心 (仮題)
II. 体制：A4判 50ページ、カラー
III. 内容：
1) 目次
2) 世界地図・アフリカ全図・マラウイ国地図
3) 写真数葉
4) 巻頭言ー日本マラウイ協会会長ほか
5) マラウイ国関係統計ー人口・面積・人口密度・地理・気候・民族・言語など
6) 国の概略一略史、国名・国旗の由来など
7) 人々の生活 (主に寄稿による)
8) 民話・民謡 (主に寄稿による)
9) 日本との関係一協力隊事業、その他政府事業 (技術協力・経済援助等)、民間事業

- 10) 生活体験記 (主に寄稿による)
11) チチュエワ精選一日常会話に使われるチチュエワ語 100語程度を精選し、日本語で意味を紹介する (主に寄稿による)。
12) 日本マラウイ協会入会の誘い
IV. 発行予定日：1984年2月26日

原稿を求めます
以上のような構成を考えていますが、充実した内容とするため、是非共、マラウイ国での生活体験を有す各位から、寄稿等の御協力をお願いいたします。お送りいただきたいものは、「人々の生活紹介」、「民話」、「民謡 (楽符も)」、「生活体験記」、「さし絵 (自筆等)」、「写真」(ネガも)、「その他資料」(地図・教科書・パンフレットなど) 何でも結構です。大切なものは使用後すぐに御返送いたします。

寄稿先：(株) 海外技術協力会
住所：渋谷区恵比寿西 2-4-5 星ビル 3F
電話：(03) 464-8586
期 限：昭和 58 年 11 月末日
また、寄稿と同時に、この企画に対する御意見、御希望や、編集に携わってくださる有志も募ります。どうぞ上記寄稿先へ初速絡ください。

◆協会活動計画第2弾◆

チチュエワ・日本語辞典編さんに向けて

協会の目的とする文化交流に当たっては、相互の文化を理解するため、辞書の編さんは欠かせません。辞書の編さんは長期的な大事業であり、一朝一夕にできるものではありませんが、現在、資金源を求めて、このような事業に深い理解を示している関係財団などと相談を進めています。

チチュエワ・日本語辞典の編さんについて、御協力いただける方、今までになされているこの試みを御存知の方がありませんでしたら、どうぞ別掲、貝塚 (日本マラウイ協会専務理事) へ御連絡ください。



日本マラウイ協会会員 只今 65 名

昭和 58 年 10 月 24 日現在 (内協力隊マラウイ OB52 名)

◆協会活動計画第3弾◆

比較生活文化事典の編さんに向けて

辞典と並んで、日本とマラウイ国との生活習慣や文化の比較事典があれば、私達にとって有効なものとなるでしょう。

東和大学国際教育研究所の金山宣夫教授によってこの試みはなされており、日常の食事から婚姻制度、企業の特徴、死生観まで、生活と文化の具体的特徴 300 項目について、日本やアメリカ、インドネシアなど、世界の 8 か国を比較した「読む事典」が出版されています。この企画に日本ーマラウイ比較が組み込まれば、文化理解のカギとして、大いに活用されるでしょう。以上のことから、有志により、その準備・可能性調査が進められています。このことに関する御意見もどうぞお寄せください。

昭和 58 年度事業計画

(1983 年 4 月 1 日 ~ 1984 年 3 月 31 日)

1983.5.21 第 2 回通常総会承認

I. 広報活動

- 1) マラウイ国側への本会創立の通知及び協力方依頼
2) 本会広報誌の発行
3) マラウイ国独立記念日 (7 月 6 日) 祝賀会開催 (暫定案)

II. マラウイに関する資料の調査・収集活動

- 1) マラウイ国広報誌『This is Malawi』などの収集及び和訳可能性調査

III. 文化活動

- 1) チチュエワ・日本語辞典の編さん準備
2) 姉妹都市提携に関する助言及び支援
3) 医療品・教育機器用具等贈与の可能性調査及び促進
4) マラウイ国からの留学生の増大に関する助言及び支援可能性調査

IV. その他

- 1) 会員名簿の作成



マラウイ国への青年海外協力隊隊員派遣実績

(1983 年 10 月 1 日現在)

Table with 4 columns: Gender, Dispatched, Returned, Total. Rows for Male, Female, and Total.

入会のおすすすめ

日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan) は、日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。

趣旨を御理解の上、広く各位の入会を希望します。

入会方法

所定の入会申込書に各項記入の上、入会金 (個人正会員は 1,000 円) 及び年会費 (同年額 3,000 円) の合計 (個人正会員の場合は計 4,000 円) とともに、下記にお送りください。

〒 153 東京都目黒区五本木 2 丁目 18-14

リオマンション 2F

日本マラウイ協会

なお、入会金及び年会費は下記の銀行口座へ送金してください。
三和銀行 東恵比寿支店
普通口座 255739
口座名義人：日本マラウイ協会
代表 卜部敏男

また、協会規約・入会規定その他については上記住所の協会、もしくは別掲貝塚光宗 (協会専務理事) までお問い合わせください。

日本マラウイ協会機関誌 「Kwacha」 (クワチャ) 第 1 号

発行 日本マラウイ協会
〒 153 東京都目黒区五本木 2 丁目 18-14
リオマンション 2F
1983 年 11 月 1 日発行